

ハ、進物ニシテ二萬兩ヲ要ス内若シ王妃ノ糸朝
 スル時ハ別ニ三千兩ヲ要スト是レ與殿ニ入ル迄、
 間ニ散布スルヲ要スル金ナリト云フ故ニ王妃ハ北
 京ニ出ツルモ糸朝スルコトハ稀ナリ北京帝至ハ
 三月月間支那政府ハ蒙古ヲ衰弱セシムルヲ以テ政
 策トス
 〇王ノ逸事 王ハ強記ナリ日本ニ遊ビシ際、事
 ヲ語リ出テ河原女史ニ向フ大阪ニテハ南京サント
 云ヘリ長安ニシテハチヤン坊主ト云ヘリ其意如何ト
 河原女史對ヘテ曰ク南京トハ南方ノ人多ク往
 來スルヨリヤ名詞トナリシナリチヤン坊主ノ意ハ知ラ
 スト虽モ蓋シ貴國人ノ頭ノ周圍ヲ刺リ花ヲモ僧
 ノ如シ故ニ其也ヨリ来リシナラント王肯ンザリ又曰ク：

(川本納)

928

遊びに際在^レ北京、川島計等同行セリ而^{シテ}途次款
ルニ京都ニ至ラバ別嬪アリト王隨^ハル之ヲ娛^シム而
シテ京都ニ着^キニ投宿スルヤ出デ来リシモノハ
老婆ナリレ王失望ス而^モ内次ニ来ルモノニ望
ヲ囑^セヒリ然ルニ出デ来リシハ又老婆ナリレカバ王
平カナラズレ^テ曰ク「ハサン不好^ハ別嬪^ハオト
又一夕王妃等トモ^ニ日本語ヲ学ブ妃ハ熱
心ニ讀^ミ習^フスル際王亦字^ハ分ナド繕キ中ヨリ「お
なら^レナル語ヲ採^リ出^シテ曰ク「是^レ陛下下ノ放^タル
ニ用^ルカレト」蓋^シ文和ニテハ御ノ字ハ上御一人ニ
用^フカナリ」大笑
王ハ自然ニ出^ツル他歸^リ無キガ故ニ巧言ヲ喜
ブ北京ニ出^テハ總^テ意ヲ得スト云フ又王ハ文和

(川本綱)

72A

ヲ御國トテ人ヨリ言ハルヲ喜ハス蒙古ヲ御國
ト称スルハ首肯スルモ文那ハ唯中國ト称スト
或ハ然ラシ而シテ王ハ歸リナキ人トスルモ人ニ喜ハレザル
ガレキハ骨漢ニアラズ現ニ某日高橋計ハ王ノ
贈品ナル文那服ヲ着シ蒙古帽子ヲ戴ヒテ王
ノ室ニ入ル蓋シ計ハ官帽ト信ジシハナラン然ルニ
是レ旅行帽ナリケレバ他ヨリ注意ヲ受ケ更ニ之
ヲ王ニ問フヤ王從容トシテ答ヘテ曰ク頭ガ熱ヒカラ
取ツク方カヨカロシ何等月滑ノ言
○此國ニ國スル王ノ注意 七月十一日王ニ會見シ内
地巡迴ニ關スル諸般ノ注意ヲ乞ヘリ王ハ即ケ答
ウルニ尤ノ言ヲ以テス
○各地ニ鈔票アリ商人ノ發スル所其ノ信用ナリ

(同前)

價ヲ異ニシ又地方ノ区域ニヨリ不通トナリ或ハ
 値ヲ異ニス錢ヲ換フル所ハ到ル処ニアリ不便
 無シ
 〇宿所モ何レノ村落ニテモ投宿スベク而シテ
 各領内ニテハ王ノ用務ナリトイハバ宿料ヲ与フル
 ノ要無シ是レハ國ノ風儀ナリ而シテ村内ニテ大
 ナルモノハ酒屋ニシテ之ニ投宿スベレハ領内ニテハ
 宿料ヲ請求シ得サル方則ナリ又老王攻ニハ王族
 ノ墓地アリテ守人アルガ故ニ之ニ宿スバク東南部
 ニモ王家ノ祖穀ヲ納ルベキ倉庫アリ番人ヲ
 レバ之ニ宿スベシ
 〇防寒衣等、調製ハ赤筆最モ便ナリ而シ達
 昌ニテモ作り得ベシ

(川本約)

930

○此國中護衛者ヲ隨行セシメント欲ス然レテ目
下北京ヨリ由官字堂視察ノ爲メニ来レル官
吏アル故ニ人ヲ附セハ目立ケテ彼等ノ疑惑ヲ
惹起サンヲ恐ル故ニ九日頃彼等ノ去ル迄ハ
人ヲ附セズレテハ附近等ヲ出視サレシヲ望
ムト
○是物ハ巴素台二道等ニハ林檎ハ葡萄
等多シ
○家畜ハ牛ハ夏秋牧シ冬ハ草ヲ予フ然レ
ドモ飼養法不良ナルカ種類不良ナル乳量
少シ牛ハ羊ニ傳染病アリ春秋ニ多ク其他
時ヲ定メス流行シ之ガ爲ニ斃ルハ多シ或ル
西洋人ハ冬羊飼養ノ不良ナルガ故ナラント

(川本綱)

云へり

○奥鬼石ナルモノ領内ニナリ又染料ニ供し得

ハチ赤土モアリ

王ハ如斯物産ヲ通貨ノ取引相場迄ヲ知悉

セリ物産飼畜等一トシテ通ぜサル無シ然ルニ臣下ニ

至リテハ宮内大臣トモ称スベキ管事長ニ至ル迄

要領ヲ得ス王ハ蓋シる地力一考ノ人物ナリ

農商部

○王爺再ビ来訪 一行出迎ヲ終リテ王府ニ帰

来セシ数日後ニ至リ王ハ余等ノ室ニ来訪

セラレテリ雑談ノ後北海道ノフウ向ハレタリ王ハ

北海道ノち地ト状態知ラリト信シ頻リニ北海

道ニ研究ニ意アルカレ余ハ乃ハ々北海道ハ未シ

新開ノ状態ニナリトテ概況ヲ語り多ク地ノ未考

(川本納)

トシテハ視察員ヲ發シテ研究ナルモ益少クモレトテ
 視察員派遣ノ一ニ付関係ニ注意セリ而シテ此
 海道^ニ工藝作物無キヤトノ向ニ豆麻ノウヲ詔
 レリ次テ多肥ノ農業ニ付改良ノ方法無キヤトノ向
 ヒニ決シテ無キニアラスサレドモ其事タル急ニ効果
 ラ見ルハキニアラス故ニ目下其レニ付専ラ考察中
 ナリ他日植^成ツテ後種^リバレト答ヘ且例令
 肥料ノ如キモ多肥ニハ牛馬等少キ結果欠乏セリ
 交通ノ便アリテ海外ニ求ムルコトヲ得バ前途ニテ考ヘ
 カルベカラザルガ如シ總テノ案ニ於テ經濟上ノ打算
 必要ナリト答フ王侯^ニ答フテサ曰ク畜^肉肉少キ
 カト然リ肉増加スルヲ要スト答ヘシニ然ラハ肉飼養
 ノ餘地無キニアラザルベシ唯現在ノ如キ放牧法ニ

(川本納)

予ハ不可ナルベシ一所ニ集メ区域ヲ設ケテ飼養セバ如
 何ト偶然混同農業ニ似タルヲ禁ラレケルハ美ミ
 然リ混同農業ニヨルベシト答フ 次テ錫伯河及
 老哈河ノ荒ルヲ防ク方法無キヤト問ヒニ對シ
 然リ山ニ植樹スル他ニ良法無シト答ヘニ植樹ハ
 如何ニスベキヤト問ヒニ全ク先ケシ地ハ直クニ栽エバ
 カラスニミシシク草ヲ生ヒシメテ後ニスバク先ケ間
 ヲリ始メバ可ナリ而シテ日本ニ比シ雨少ナケレバ植樹ニ
 良ク又河流ノ荒ルモ日本ニ比シ雨少ナ故早ナリ防
 止得バク唯樹木ノ生長ハ日本ニ比シ速緩ナラント
 答ヘニ多ク地ニ木ニ多ク數種アリ冬季ニ落葉セバ
 ルハ木ノミナリト語ラレタ然リト夫見上多クノ樹種ハ存
 スルカ如シト答フ王又杉ハ如何ト説ニ是レ或ハ不

農商務省

(川)

934

可ナラント答ヘヌ次ヲ王ハ樹木々作物トモ種々ノモノ
 ヲ集メ訓作レテ適カシモノヲ樂直ニスト欲スト述バ
 ラレタ次テ晴雨計ノ談トナリ王モ其小ナルモノ一個
 ヲ有セリト語リヌ又寒暖計ノ談アリ余ハ總テニ
 付熱心ニ説明シ懇切ニ教ヘタリ後ニ緯度等ノ
 フヨリ地圖ヲ用キ戲談トナレリ王ハ其ノ祖先ノ榮ヒシ
 地ウリヤンハイ^ハニヨリ蒙古全部ヲ領セバト笑ヒ且
 滿州ノ地ハ日本ニ領シテ可ナラシナド、戲レヌ而シテ露ヲ
 見テハ大ニ^ハ其^ハ中ノ一湖水ノミニテモ喀喇沁ニ同
 ジト悄然タル^ハ胸^ハバル妙ナリシ我等モ東清鐵
 道ヨリ付^ハニ文藝線ヲ構ヘバ可ナラント笑フ王ハ
 又姚^ハ南清人上海ヲ出ツル時桃花ヲ見シニ途中
 又之ヲ見天津ニ至リテ又之ヲ見次テ当地ニ達シテ

又之ヲ見タリトテ笑ハハ余昔シ我國ノ大名ノ未勤
 交替ノ際、康兒島ニテ櫻花ヲ見テ後余次總
 テ之ヲ見江戸ニ至ツテ其ノ終リニ接セシ例アリト笑フ
 又王ノ日本ニ遊ビシハ旧曆二月ノ末ニテ天津、北京ニ
 テハ總テ枯野ナリトシ日本ニ着シ馬関ヲ見シニ山
 野總テ青ナリトシ驚キト稱ス

〇ロニテニスノ器械到着シテレバ其ノ方法ヲ

農商務省

教ヘヨト河原女史ヨリ豫テ依頼サレシガハ際王公邸
 ハ携ヘラレタリ則チ王ト吾等四人ニテ左右ニ合庭
 上ニテ蹴打一番今後王公邸、福晋等モ盛ニ
 之ヲ憐ラントスト而シテ略略心ニ擴コルナシカ面白キ
 フニコソ呵々

〇報告ノ為メ王ニ會見 十月十五日最早帰朝ノ

日モ近ツキタレハ報告的談話ヲ爲カン爲キ午
 辰一時王府ニ至リ大要子厄ノ如キ交渉ヲモリ
 二、咲喃心農業派論ニテ表題ニテ日本文ニテ
 草書ニテ片ノ報告各ラロ主ニ帰朝直リ勿キノ際起
 草ヒト年来材料ニ之レキカ故ニ唯要子傾ノニテ詔
 メタリ而シテ日本文ナレハ原サ更トモニ願覺
 三、トウエヒニ王モ文章ハ畧統ムヲ得ト云ヘリ
 日氣象観測表ヲモ添付セリ
 二、氣象観測ノウヨリ最位最高寒暖計一個
 ノ購入ヲ托サレ之ヲ諾ス
 三、王ハ帝王中煩ブル不待過ナリシヲ謝ヒニ余ハ否
 笑ニ懇到ナル待遇ヲ受ケ誠心敬意ヲ以テ謝
 スト對ヘタリ

(川本 龍)

937

四、而テ王府、来リテ初キ拝顔セシ以来他國ノ
王、耶ト思ハレズケ王、耶ノ為メテハ徹頭徹尾輔ケン
ト欲スルノ念、禁スル能ハス故、今後若シ望マル、フア
ラハ特ニ農事ノミナラス如何ナル、ミテモ遠慮ナク申
込コシテヲ

五、此ニ於テ王ヨリハ日本ノ博覧会、摩蒙古ノ天
幕ヲ出、出シ且多クノ物品ヲモテ添ハン、ヲ欲ス、因
農商務省

ヨリノ商業上、幸ニ益ナカルベキモ、地方ノ状況ヲ観カ
スルノ一端トモナシカ、而シテ博覧会ノ際ハ、予モ来
觀スト、且モ若シ支那人タト、モ、行クトモハ、若物
ヲ多ク携フルヲ得ス故、特ニ取扱ヲ得ン、ヲ
乞フト、余日ヲ然リ博覧会ハ、一、事前ニ定ムルカ
故ニ、必ラス通知シ、便宜ヲ圖ハスト、各カスベシ、切ニ

(川本納)

938

出由アランフット

六、東京ノ経緯字堂ヨリ蒙古ニ配布ヲ望ミテ郵

送ニ奉リ規則各等裁部ヲ不用ナルベキモノトテ呈

セシ王ハ喜ビ否多方ニテ字堂ノ案考トナルトテ納メ

ラレヌ

七、地圖ハ製シテリヤト向ハレシリ余日ク何分番

械等ノ乏シキ爲メニ完成スルニ至ラス故ニ携クヘ歸

農商務省

ラシ後一本ヲ贈ル王スベシ

八、又農務案上ノイモ尚詳細調査シ他日送呈スヘシ

九、而シテ甘ニ認メシ以外ノハ北京ニテ内田ニ使ミ

詰リ置クベケレハ固カシヲ云ヒシ王モ然リ而シテ

内田ニ使ミモ他ニ漏レガルベノ注意サレシヲ望ム余

ハ誅必ラス小ハナルベシト答ヘシリ

(川本 題)

939

才女 喀喇沁王妃

王妃(文郡公之福晋ト云フ)ハ喀喇沁王府中カ一
ノ英才ニシテ又カ一、難物ナリ王ニ至テ面角ニ據ッテ
立ッノ慨アルト共ニ甘種ノ女性ニ有リ勝々ノ總テノ
弱點ヲ有スルカ如シ尤ニ託スル処、託事或ハ過大ニ失
シ或ハ誤聞ヲ傳フル処ナレトモカレハレトモ能ク
甘聞ノ機微ヲ規フニ足ルモノアラシ

蒙古 喀喇沁 王妃

○王妃ノ初会見 七月九日福晋ヨリナク一時会
見ノ通知アリ一同禮服ニテ出頭應接室ニテ先
ッ王ト會談スルナリ時王妃ハ原可ニ伴ハレテ奉室
水色ノ絹服肩掛ヲ為シ顔ニ紅粉ヲ施シ頭ニ
平ナル長キ髻ヲ戴キ花簪ヲ挿シ耳飾ヲ垂レ
裳ニ凝ミシテ入り一同ト挨拶ス而シテ甚タ謙遜更

(江本組)

ニ鋒をヲ現ハサズ寧ロ恥ツルカ如ク言談其細カナリ
 且モ其レ大潜勢力ノ体ニ充テルヲ微徴ノ間ニ認ム
 ベキモノアリ蓋シ表ニ處女ノ如ク内ニ悍馬ノ如キモノナル
 ナカラシヤ妃ハ間モ無リ去リ又唯普通ノ挨拶ニ過
 ガザレン

○王妃ノ氣質 王妃ハ頭腦明晰ナリ故ニ宮中ノ
 事務ハ一人ニテ處理シ王ヲ煩ハサズ故ニ臣下モ妃ヲ

敬慕ス

憚ナル如斯聰明ナルモ稍々疴癖アリ若シ意ニ違

ハ其憤リ甚カシ故ニ甚ク注意ヲ要ス頃日王ト

王妃ト間紛議アリ劇烈ナリシガ遂ニ消却スルヲ得

タリト聞ク由未ク両者間ニ厚々葛藤アリ傍人等

之ニ困シム今回ノ事ノ起リハ小学校ノ主任ナル漢

字教師正以鐘其夫人トシテ女子學堂ノ生徒數

(川本納)

最モ長ケタル廿四歳ノモノヲ得シト欲シ昨来ヨリ之ヲ
 王ニ乞ヘリ然ルミ、王ハ既ニ一人ノ夫人アリテ其オニ夫人
 トシテ求ムルナリキ而シテ一方ニハ其元来性質直ニ
 カラズ王モ一度其オニ夫人ノ候補トシテ見合セタル
 モノナレバトテ憤ニ許ラス而シテ何原由ニモ諮問センカハ
 計多知ノ風俗ハ如何ニ拘ハラズ我女子堂ノ生徒トシ
 テハオニ夫人等ニオナルハ不可ナリト諭セリ王妃モ同
 意見ナリレカ王又王ニ乞フヲ類リナルヨリ王ハ輒モスレハ
 之ニ應ギントスルモ色ヲ現ハセルヨリ王妃之ヲ否トシ遂ニ
 劇論トナリ惹ヒテ葛藤トナリ王軟弱ニ過グルガ故
 ニ如斯事ヲ申シムナリトテ王妃ハ王ヲ痛罵シテリ
 ト云フ而シテ一方ニハ其ノ女生徒ヲ啖ビ同時ニ附近
 ノ夫人連ヲ召集シ其ノ列座ノ中ニテ其ノ女生徒ヲ

農
 商
 工
 兵

(河本四)

責メタリ其女責ムルト林ニヨリハ寧リ四言ニテ
 ニハ之ヲ捕ヘ自カウ甚ダレリ改^改打スルニ至リ河原氏ハ初
 メ夫人連サス集マツリ見テ何等ノ慶事カアルト想
 ヒレニ付女ハ駭キレト云フ然レモ河原氏ノ面前ニテハ
 甚ダレキヲヲ懷ムトモ甚モ若シ付テ立ラサル所ニ於テハ
 殊ニ甚ダレクテ性々近ツクベカラサルコトアリ近侍ノ輩
 ニ對シテモ是常ハ好シ又意ニ協ヒレ時ハ甚ダ好レト
 雖モ一朝其意ニ悖レハ太夫人ト雖モ用捨スル所ナレハ
 此ニシテ爲足ラス次テ又女生徒一同ヲ集ムツ汪ハ教師トシ
 テ座ト王ニ於テモ夥シキ費用ナリ然ルニ女生徒ヲ求
 ムルカ如キ不礼ナリ彼カ如キモハ以後信用スル勿レト汪
 ハ小学堂ノ教師トシテ女字堂ノ漢字教師ヲ兼
 スルモノ然ルニ生徒ノ面前ニ於テ如此言ヲ爲ス^輕率モ

農商務省

亦甚だレ斯クテ汪去ラハ如何^レ去^レ大^レ可^レ之^ニ次イテ
 来ルモノハ無キニ至ルハ若^レ来ルモ之ヲ聞ケハ好感情無
 カルベレ折檻ノ古例^ニ笑フニ堪ヘシク事理ヲ解
 スト称スモ未ダレ

又日露戦争ノ起ラントスル中ノ前露人先ツ甘方面ニ入リ
 テ迫リ来ル王ハ伊蘇大尉益力ノ事モアリ鶴ニ決ヒズ臣
 下ニ至ッテ^ニ贈金ヲ得テ悉ク露ニ傾ケリ而レテ王^ハ妃

農工商務省

其際、作度コソ笑ウヘン日リ復リ露ヲ助クベシ日本如
 キハ十年前、仇敵^ヲ（王^ハ妃^ハ清帝、自主族ナレバナリ）且一度
 露ト戦ハハ日本ノ小ナル勝ヲ得ヘキ、理由無シ若シ
 誤ッテ之ヲ助ケ露路ノ攻ム所トナラハ如何スヘキ日本人ノ如キ
 ハ復ラリ逐ヒ払フベト類リ、王^ハ自レリハ原女史初メ之
 ヲ知ラズ日ヲ怪テ之ヲ聞キ大ニ驚キ日露ノ状態、初

（川東制）

害ヲ脱中其不可ヲ諭スモ急ニ意ヲ翻スノ状無リ河
原計ハ愈々煩悶シ事態如斯ハ安然タルヲ得ズト
肅親王等ノ意見モ日本ニ至リテ林シ極々方
面ヨリ論シテ事ヲ決セカウレメツアル、際ホ一ニ鉄道
破壊ノ先鋒トシテ伊藤氏等北京ヨリ来リシニ
際モ尚之ヲサヘ極モントスルノ状アリモ其ト同時ニ肅
親王ヨリモ特ニ人ヲ派シ王死ヲ諭シ次ニ又海軍ノ
好成績ヲ傳ヘシヨリヤ、其意ヲ緩ニセシモ日本
ノ克ヲ俟セカルト人レシ其後連戦連勝ノ報頻
リニ至リテ俄カニ日本ニ依ルノ言ヲ決シテ云フ王死
ハ頭腦ノ明ナルト稀有ノ人ナリ 元来北京人ハ男女
モ其甚ダシク尊大ニテ自國ノ如キ進歩シタル國ナレト
信ジ欧米人ヲウヘ侮ドリテ卑シク絶エテ他ノ教ヲ受

農商務省

(川本納)

ケントスルノ意ニ無シ然ルニハ王妃ハ其等ノ衆ニ於テハ
 甚少好リ理解シ且決断アリ才氣アリ故ニ複雑
 ナル宮廷中ヲ整理シテ他ヲ煩ハヌク又群令
 ニモ巧ミシテ人ヲ服セシム故ニ教育アラハ有為ノ人物
 ナリト云々唯教育ナク且根本ニ文和氣質ノ存ス
 ルカ故ニ較テスレバ如斯キユトアリ其才氣アルハ甚
 悪強^老ケレバ之ヲ指導スルニハ甚ク注意ヲ要ス
 軟弱ナラバ到底之ヲ教スベカラス而モ強硬ニ過グレ
 ハ勿^レ也^ハ衝突シテ止ムル所ヲ知ラズは原々失ノ苦心察
 スルニ餘アリ然リ而シテ王妃教育ノ要ハ勿^レニスベカ
 ラズ何トナレバ王室ノ権力ハ殆ント王妃ニ在リ王ノ欲ス
 ル所モ王妃ノ同意ヲスルミアラサレハ行ハレス臣下亦王ノ余
 ヲ奉ヒサルコトアリ故ニ臣等此ノ如キモ其言ハ王ノ賛

946

柜

スル所トナルモ王妃ノ積成ヲ得サハ行ハレステ困シシ
「アリシガ女史来リテ以来ハ内帑ノ都合甚ク好決果ナリ
シト云フ故ニ味刺心ヲ扶助スルニ男子ノ體向テ王側
ニ要スルトモ亦王妃ニ侍シテ内ヨリ調和援助
ヲ為スモノ最も緊要ナリ若シ一度王妃ノ向背ヲ
ニニズルハ角ノ経営水泡ニ帰スバシ味刺心ノ逸
物ハ王妃ニシテ難物モ亦王妃ナリハ女子好リ尊キ好
リ利用スルハ経営上ノ骨子ナルベシ

女子堂ヲ設クハ際ノ如キモ王ハ北京ニテ河原氏
ヲ約束シ来リシナレハ直々ニ関カントヒレニ王妃ハ之ヲ
拒ミ学校ヲ立テ、何ノ益アラントテ應セズ而シテ北
京ヨリハハ依託ニヨリ河原女史ハ上海ヲ歸シテ侍
テリ勲族ヒラルトノ事故如斯セシナリ若シ学校ヲ起

農商部

(附本)

947

サル、まづ一日を連ナルヲ創トス如何ト昏面ニテ
自ル王ハ非常ニ痛心シ約半幸ハ王妃ト幸ヒシガ
遂ニ没立スルヲ得シクニ至リテ女史来リシモ其ノ多
初ハ實ニ何事ヲモ解ヒサル傲慢者ニシテ如何トモ
バカラサリシカ其後漸々母ビテ今ハ一愛シ願フル賢
良トナリシニ時ニハ本性出テ死カモ十五六歳
ノ如ク見ル如キツアリト云フ

農商務省

用新前露人より運動スルヤ王ノ躊躇スルヲ見テ
姫新然露ノ親トシテ衆ヲ集メテ演説シテ曰ク
「日本ノ如キ興味刺心ノ事ニ過キカルモノ豈露國ト戦
フテ勝ソベケンヤ王ハ伊存翁ノ恩ヲ言フト虽モ彼等ハ
偉人ト云フチニ歴ヒレモノ、其ノ恩誼カアラン酒ヲ連
ニ露人ヲ助リバシト其言ノ大膽ナル人ヲ駭カレノメルニ

（川本）

94A

今ハ事ヲ解シテ日本先トナルモ測リ准キハ人心ナリ
教育ヲ怠ルベカラス

の王妃ノ操縦 王妃ノ放逸ハ常識ヲ以テ律ス

ベカラスオアルガ故ニ明ナル片ハ在メテ明カナレハ一度曇

レハ雨トナリ嵐トナル殆ントチラ下スニ由無レ然レハ

は原計まりテヨリ 晴天ヤ、多キヲ加ヘタリトサ史ハ之

ヲ晴レ続ケント努力シフ、アルモ値氣歴ハ彼ノ小人

農商務省

等ミヨツテ三百文五百文ニ買ヒ込コレ忽ケニシテ海

トナル中間、其年暮スベキナリ故ニ女史古事ニ依

屬シテ宴席ニ於テ王ハ王妃ノ学事ノ熱心ナルコト

ヲ体潜センヲ求メラル是レ王ト吾人ノ會見ハ其ノ

終ル處必

949

楊を一言、達するに、彼、虚栄心、ハ為メニ大なる満
 足トナリ、榮ヒテ字事、勢力トナルト余ハ其は文ヲ果
 シセリ、其ノ體諱王ニヨリテ、此ニ因テ、時彼ノ得意
 想フベレ、後數日天氣恢復晴天ヲ見タリト云フ然
 カノミヨラス王妃ハ吾事ニハビスケツト一錠ヲ贈ヤリ
 うれハ大ニ笑セリ
 〇王妃ノ商業氣質 園遊會ニ陣リ、生徒
 ノ製作品ハ是レ宛ニ一年間生徒ノ勤思ナリ、其
 其收納金ハ悉ク王妃ニ納メ、其一部分ハ、翌年ノ
 資金トシテ原料購入ノ料ニ授ケセラル、王妃ノ吾人
 ニ買取ヲ望ム、切ナルヤ明白ナリ、而シテ本日吾等
 ハ福利ノ材料ニモト景品ノ餘剩ナル繪、指環
 等ヲ贈リシニ、王妃ハ喜ンテ而シテ、その中ノ良品ハ之ヲ自

950

已ニ収メテ目ウハケモ、下等社會ニテフルモ益ナシ
 之ニ付ヘテ燐燭ノ一キヲユウレハ即ケツナリトテ没収
 ヒリト以テテ怪滿主義ヲ想見スベシ其支那的
 酒カナル根性ヲ想見スベシ是更ニ驚クヘキハ過日
 付王府ニテ芝居ヲ興行スルニトナリテ其際王位ノ
 賣店ハ出サレテ其賣ル所ノモノ豚肉、野菜等ノ
 下等飲食物ナリレ其等固ニテ果レサルヲ得ザリシ
 農商務省
 福晋ノ其手動 通譯劇ト一行ノ案内者ナル
 金老翁ノ其手動 彼ノ車川出過ノ慰問トシテ老翁
 自車夫馬丁等ニ與ヘシ銀ハ處分ヲ以テス彼レ答
 ヘテ曰ク彼ノ銀ハ金老翁ノ携ヘテ王ノ前ニ出テ次テ
 之ヲ管理事所ノ秤ニテ檢メテ際福晋ヨリ余
 アリ 錢 兩、廿吊ノ一ハ車夫馬丁各自ニテスベシト

(河本約)

他ハ厥余一般ニ分配ヒヨトテハ慰方^{カハ}均^ハ活
スヘキ性質アレバナリ而シテ餘ニ授ヘテ分配ニ便ナラシ
メンテ銀ハ予ニ提出セヨト則チ余ハ如ク銀ハ福晋
ノ手許ニ據ヘテレシ其マ、押收セラレテ換身ハ遂
得ズト其故ヲ問フ人耶唯其笑スルノミ嗚呼^ミ之^ミ笑
ニ是レ無情ノ所為ニアラズヤ何ヲ以テカ臣僚ヲ服
スルヲ得レ王府ノ病原ハ何所ニ至リ故ニ下僚^ミ唯子
農商務省
逸台^ミ情^ミヲ含ムノミナズ眼界ノ達ヒガル所為ニ得
ル限リ私腹ヲ肥スニノミ汲^ミトレテ上ナルモノハ下ラ交
リ下ナルモノハ上ヲ怨ミ而シテ王族ノ收財^ミハキモ多
ク彼等ノ為ニ私カレ去リテ王室ハ常ニ借財ニ困
ラントス愛親寛羅ノ血統^ミ福晋^ミ斯^ミ愛親寛
羅ノ朝廷ノ一宗スヘキナリ然ルニ金老爺^ミニ子ヘレモ

(川本納)

ハ彼レ志ク之ヲ携サヘテ王ノ前ニ出テテ王一度之ヲ
秤量シ而シテ後ツ是レ汝が受ケタルモノナリ汝有トモ
ト携ヘ帰ラレメシト云フ王即ナルカナ

○王妃ノ品性 王妃ハ字ニ巧ミナリトテ得意ナリ
之ニ乘レテ操縦スルモノハ臣民ナリナリ吾等カ
皆ヲ望ムルガ故ニ認メテ子ヘヨリ然ル王妃得意ナリ

而カモ 謙遜ヲ装フテ曰ク我々本シ其域ニ達ヒスト而カ
農商務省

モ得意ハ掩フベカラス而シテ他人ノ字ハ拙ナリトモ
ア若シ得テテノ字ノ巧ミナルカハチアラシカ 彼レ女

カラサル也アリ王妃ハ一日、一箇ハ必ス女史ヲ訪フテ
カ而シテ女史手紙ヲ認ムルコトノ達カナルヲ見テハ女

ラス又新聞ヲ讀ムノ達ナルヲ見テハ女史カラス女史
モ時トシテ之ヲ不足スルモ若シム而シテモ達カナルニア

(川本朝)

ラズト韓スルミ及ンテ初メテ心ヲ安ンズルカ如レ而モ
 宇校ノハ女史ミ一任ニサルヲ得ヌ然ルミ猶ホ可笑
 レキヲアリ寄テは原ハ地理ヲ講ジ生徒ヲテ感動
 泣クニ至ラレノレアリ而テ生徒ノ中ミ^雜ル後宮
 ノ侍女帰ツテ之ヲ妃ニ語リレミ其翌日妃ハ宇校ニ
 来リテ直ミ地理ヲ講ガリト呵ハ
 ○王妃ノ体操 是原女史ノ勸メヨリテ毎朝棍
 棒ヲ振リテ体操ヲ為メ女史師範トシテ之ニ赴リ
 ○王妃贈品ノ使者 十月八日小格ハ来リテ教ハ
 接伴係ノ一人ニテ叫ハル可憐ナルハ王女来ハハト座ヲ
 立ツテ迎ヘントスレハ已ニ入り来レリ爲実然然妹姉
 老姐ト一人侍臣傳^テテ多クノ苹果、梨、葡萄
 菓等ノ盆ニ盛リタルヲ齎シタリ衣ハは原女史ノ贈

リレテフ唐綿緬ノ洋服ヲ着シ頭髪ハ清ク梳リテ
三方ニ辨シ合ケタルヲ垂レ好シ礼ヲ贈シテ笑ニ愛ス
ルニ堪ヘタリ我等既ニ王スヘキモノニ~~ニ~~キレト~~ニ~~安キ~~ニ~~畫
葉皆中ヨリ一枚ト寫シ賦リヨアリシ小女ノ江戸繪キ
板ヲ削キテ雪子ト云フレバ大ニ歎ヒテチヲ放シガ次
テ亦一存ノ江釣筆ト洋紙ヲ子ヘシ更ニ其ハリウ時
座ニテ憩ヒ後又カリ礼ヲ贈シテ去リヌ笑ニ小兒
ハ人老タル愛ノ神ナルヲ而シテ人レク渴ヒシ米物ノ味
ニ舌ヲ舐ナメ
○王妃ノ傳言 王府ノ臣僚ニ贈ルヘキ品ヲ所求
ケシ托セリ所求ナク更ニ王妃ニ王ビシニ妃日ク氣
臣トテ彼等ノ中ニハ一人ノ忠者シ世シヤモスレバ租税
直ラモ知レテ逃亡スルガ如キノ徒ノミ頼クハ之ヲ辟退セ

956

ヲ返シテトハハ産礼ハ何國ノ凡ナリト云フ故ニハ贈品
モ返スモ不ツナレト信ズレカ如シ然レハ原女史ノ言
ヨリ納ムルヲトナリレト

〇王妃ノ贈品 王妃モアツリ似合ハズト思ハレテカ我ニ

持来シシレヨト頼コレコシタ 笑ハ王妃ノ方カウ持メテ

上ルツモノテアツク●ノグソウデスケレドモレトテハ原女史

自身ニ賚ラシ来リテ贈ラシタル物ハ文那服ナリ

農商務省

余ノ上

957

品柄ハ惣テ日本産ナルハ其ノ既慮ヲ見ルベシ

付地ニテハ綿楓布ニテモ廉ナラサレバ多クノ針ヲ要

シタルベシ隣家ノ汝女子ノ贈品ナラバ爾等余ハ

使者ノ面前ニテ諒ミニ之ヲ着ス如何。使者ノ面前

ニテモ一同噴キ出スヲ禁ジ得カリレサレバモ其氣

一度襲来セハ思患ヲ謝スベキチ。王妃様へはナ

旨敷ハ礼ヲ陳ヘヌ

95A

〇吏僚ノ腐敗 七月九日印務所ニ長官伊老那
 ラ訪フ彼ハ勅メ吾人ノ實情ニ對シ言フ尤太ニ此ニテ
 眞想ヲ述ルラ邊セントモオナリテ而テ吾人既
 ニヤ、事情ニ通レ来リテ知ルヨリ今日ハ哀求的ノ
 言ヲ爲ス之ニヨレハ蒙古ハ殆ト漢人ノ爲メ経済
 上占領セラレテ如何トモ難キヤ如シ日ク漢人ノ校
 猾ナル一例ヲ示シハ蒙古人ノ土地ヲ借耕セリトセン
 農商務省
 ニテ地主死スルモアテカテ見ノ妨礙ニテ何事ニ
 モ通

959

ヲ清ヒ一々名位ノ兵ヲ借ラガルハカラス而カモ又那兵ハ
規律ナリ且元來漢人ナレハ却テ弊ヲ不利益ヲ蒙
スノ患無シトモ又之ヲ借ルノ費用ニ苦シム而シテ
我ニモ未ダ古兵ナキニアラスト莫ク之ヲ用ヒハ又那政府
トノ問題トナルベク故ニ如何トモスヘカラス若シ日本ヨリ
シテ其兵ノナ名ヲ借ルヲ得ハ新シテ行フコトヲ得ン
ト我等ニ言フ餘リニ意外ナル益^喫ヲ得セリ実
ニ洋スルニ弊ゾモアラガルナリ而シテハ執ヲ馴致セシハ
即ケ彼等更僚ミレテ必スア盛ニ賄賂ヲ貪リ今ニ
至ッテ如何トモ為シ難キノ一嘆兩心ノ一憂ニ倒レカ、
リ^{本度}連^金余ナリ

○王府、吏員 王府^室、農場調査ニ出張セン
トテ前々

及バ子馬ヲ牽キ来ラズ侍ソフ良久レカクレモ遂ニ
短氣ナルヲ奔流ニテ步行ビシトテ船ニ出タリ係ヲ
ノ輩恐惶狼狽謝スルヲ甚クハ王ニ訴ヘガラン
フヲ云ヒ途半午食ノ際ナドモ又言ヒ出レテ切ニ謝罪
スルモ可笑シ彼等ハ時ニ怒ラサレハ駈スベカラサルナリ
付一剎軒ノ爲ニ準備覺ニ成リヌ

農商務省

栗馬五頭馬車一台是レ吾人ノ馬ニ慣レカラン
フヲ慮リ特ニ馬車ヲテ調ヘシムナリ蓋

此ノ國ハハハ家ハ王室ノ貸家ニテ付主人ト見ル
 ハ皆手櫃的(番頭)ナリ而シテ資本主ハ王府ノ管手
 慶長ト他一名ノ合資ニテ付

う同つて不得要領ナリ又農場、監督者たる
 蒙古人ヲ映シテ曾スミ豆ノ播種季ノ知ラス他
 ノ農夫、如キ又

蓋し一婢、賄賂ナリ

一般蒙古人ハ支那人ニ比レ日本^人ニ近キコトモアリテ

964

ノ一同長トモ存スヘキ役人ナリ彼レ在ルヲ長年牧場
ニ案内セントテ朝餉勿ル馬ニ騎リ峠ヲ越ヘテヨリ
疲勞ニテ不快ナリト云ヘリ庶事ノ

965

ハ三名アリ 時トシ

97/

豚肉ト胡瓜 胡瓜ト豆皮 胡瓜漬

豚肉ト菜ノ煮付等

974

リレ其内數匠及制皮者ハ各ニ吊

977

ケル小説的情事ナリ

オセ九 崇剛心王府

